

# 安部龍太郎先生を囲んで 「歴史小説から広がる歴史コンテンツ」

歴史コンテンツのクリエイターなどを対象に、歴史小説家を迎えて歴史の謎と魅力に迫りつつ、シナリオやコンセプトメイクなど歴史コンテンツの創作方法を探る座談会を開催します。ゲストスピーカーは日本経済新聞で連載小説「等伯」を執筆されている安部龍太郎さん。歴史小説を執筆するにあたり、史実と創作を織り交ぜながら、どのようにして人物像や時代背景をつくっていくのか、また小説のバックボーンとなる戦国時代の世界観まで、幅広く語っていただきます。皆様のご参加をお待ちしております。

## ●ゲストスピーカー 安部龍太郎 氏

1955年福岡県生まれ。国立久留米高専卒業後、作家を志して上京。区立図書館に勤めながら同人誌で作品を発表。1985年退職。1989年から1年間「週刊新潮」で「日本史血の年表」（本は『血の日本史』に改題）を連載し、衝撃的なデビューをした。その評価から、「隆慶一郎が最後に会いたがった男」という“伝説”が生まれた。その後、次々と力作を発表し、歴史小説の次代を担う気鋭の作家として大きな期待を集めている。 <主な著作>『血の日本史』、『彷徨える帝』『関ヶ原連判状』（新潮社）、『風の如く水の如く』（集英社）、『密室大坂城』（講談社）、『バサラ将軍』（文春文庫）、『神々に告ぐ』（角川書店）、『信長燃ゆ（上・下）』（日本経済新聞社）



## ●内 容 安部さんと参加者との交流を重視した少人数の座談会形式で行います。

### 第1回 「構想力～歴史小説はどのようにしてつくられるのか～」

歴史小説は、時代背景や考証がいい加減になると読者の興味を削ぎかねず、反面、史実に作者ならではの脚色を加えないと、魅力的な人物像やダイナミックな時代の流れを演出することができない。そこで、歴史小説を作り上げる過程で、読者を惹きつけるために、史実と創作をどのように織りなしておられるか、そのお考えをお聞きます。

### 第2回 「『蒼き信長』『信長燃ゆ』の織田信長像 ～史実と創作～」

歴史小説の中で多くのファンを引き付ける戦国時代。その中で時代の風雲児ともいえる織田信長は多くの小説で描かれており、その人物像も多様である。そこで織田信長を例に、他の作品にはない人物像を作り上げていくために、どのようにして仮説や人物像を立てられたのか、『蒼き信長』『信長燃ゆ』などの制作体験などを踏まえて語っていただきます。



●日 時 (第1回)10月7日(金)、(第2回)10月14日(金) いずれも18:00～20:00

18:00～18:30 キースピーチ

18:30～20:00 フリートーク・交流

●場 所 京都太秦クリエイター支援拠点(UZU)(京都市右京区太秦多藪町 45-19 ヤマトビル2階)

※駐車場はありませんので、公共交通機関でお越し下さい。

- 定員 15人(定員になり次第締め切ります)  
\*ご参加いただける方には事務局より参加証を発行します。
- 参加費 500円/各回(交流会実費 ※当日、会場で申し受けます)
- 主催 京都府、NPO法人映像産業振興機構
- お申込み 下記の申込票に必要事項を記入して、9月28日(水)までに事務局までお申込み下さい。  
E-mailでお申込みの方は、申込票の記載事項をお書きのうえお送りください。

●お問合せ・お申込み先

NPO 法人映像産業振興機構

京都太秦クリエイター支援拠点(UZU) 事務局:中谷・原田

〒616-8167 京都市右京区太秦多藪町45-19 ヤマモトビル2階

電話・FAX:075-432-7340

E-Mail: uzumasa@vipo.or.jp

★★★★★★★★★

UZUトークセッション 申込票

★★★★★★★★★

参加希望のセミナーに「○」を付けてください。

第1回

第2回

氏名	
会社名・団体名/大学名	
所属/学部	
役職/回生	
電話番号	
ファックス	
E-Mail	

個人情報は、本セミナーの名簿作成や参加証送付等の連絡に使用するほか、主催者からの案内に使用させていただきます。